

日 時： 4月 29日 (晴れ)

参 加： 岡本 (L) 大西、嶋原、宮本 (記)

良いお天気に恵まれ暑い一日になりそうです。大阪上本町一本早い7時10分急行に乗車8時05分榛原駅到着、ホームにて大西さんと挨拶を交し嶋原さんも早く到着しておりました。メンバーも揃い岡本車で出発です。桜も終わり車窓からは、山々の木々にふじの花が綺麗に咲いています。笹野神社を通り過ぎバックする、神社確認後大又林道脇に車を止め9時15分~9時25分大又バス停前の笹野神社横の小道から登り始める、一旦車道に出て林道を少し登った所の分岐右折れ右に小さな表示板があり、山道に入る薄暗い杉植林地の中、急斜面をひたすら登る汗が顔から滴り落ちてきます。古池辻到着です。10時15分、後から重いザックを担いだ年配の男性が登ってこられる小休止して、大鏡池へ向かいます。かなりの勾配の急登山道です。心地よい風が吹き桜も舞い疲れた身体を癒してくれます。やっと尾根らしい明りが見えてきました。あとひと頑張りです「大鏡池」に到着です(1182m)11時25分池は登山道から外れた右に少し下ったところにあります。池には水がなく雨乞いしたと言われる小さな祠がありました。大鏡池を過ぎると傾斜も緩くなりしばらく歩きやすい道です。尾根道を進むと気持ちの良いブナの樹林に変わり(S氏)あれば、カメノ木と教えてくれます。白い綺麗な花が咲くそうです。話が弾み歩を進めます、「木屋ノ尾頭」の標識の字が薄くなっており見えづらかったです。ピーク1300m木屋ノ尾頭を通過して、薊岳へ向かう、狭い尾根道と変わり木の根や岩場が出てきます。足場に注意してゆっくり進みます。岩場は、三点支持で注意して登ります。スリルも有り楽しいです。雌岳の岩場で声が聞こえ5~6名のグループを抜く、雌岳から一旦岩を右に巻き岩稜の岩と木の根っ子をしっかりとつかんで登りきると、薊岳(雄岳)山頂到着です。12時40分(1406M)山頂には、何名かのグループが到着しておられました。先程のグループの方も到着され、狭い山頂は、お天気も良くにぎやかです。私たちも、思い思いの弁当を取りだす。頑張って登った後の食事はとても美味しく頂きました。腰を下ろした目の前に石楠花の木があり蕾みが膨らみ赤く染まっていて綺麗でした。まだ少し早かったようで断念です。お天気も良く薊岳の眺望を楽しむ、台高山脈から金剛、生駒、衰うく大峰まで見渡せる。南の展望からは、大普賢岳、釈迦岳、北の展望は、高見山、伊勢辻山、素晴らし山並みの景色を楽しみ集合写真に納まりルート変更して明神平から前山を経て大又へ下山する、薊岳13時25分明神平に向けて出発です。「薊岳」からの急坂を下ると気持ちの良いブナ林の中アップダウンを繰り返し進む、生き生きした緑のバイケイソウが目立ち始める。後ろ振り変えれば木々の間から「薊岳」雄岳、雌岳あの稜線から、下りてきたのだと感動して。前山(14時10分)へ向かう、最後の登りとなり、結構きつくやっと登り着いた明神平を見下ろす前山に到着です(1414M)14時29分パーと開けた明神平の素晴らしい草原が広がり前山の稜線から水無山、国見山が見えています。明神平の向かいの山の中腹に山小屋が見えます。テントも何点か張られているのが見えます。緑の濃いバイケイソウの群性する明神平「あしび山荘」迄下りてきました。東屋には何名かの登山者の方が休憩をしておられます。明神平(14時36分)後にして、大又へ明神谷をジグジグの道を慎重に下りて行きます。途中水場があり竹筒から清水が流れ落ちています乾いた喉を潤しました。明神滝が(15時27分)左に見え写真に納め下ります。ロープが張られおり、渡渉箇所を5ヶ所程越え大又林道終点(16時)に下りて来ました。駐車場迄長い道のりを沢の気持ちの良い水の音と所々に咲く藤の花を眺めモミジの

青々した目に優しい新緑のモミジに癒されながら駐車場に（17時05分）到着です。充実した山行きでした。岡本リーダー運転有難う御座いました。メンバーの皆さん有難うございました。高田駅迄送って頂きました。二人で反省会をして帰宅しました。



薊岳



前山～明神平



明神滝上～薊岳